

通級指導の充実を目的とした研修会における エリアコーディネーターとの協働

通級指導における本校の役割と実践

(役割)

- 高等学校における通級指導のサポート校としての役割
- 小中学校における通級指導担当教員との連携という役割

(実践)

- 特別支援教育地域連携研修会の実施
 - 小中高校の通級指導担当教員との情報交換及び実践報告
- 高校通級合同研究会の実施
 - シンポジウム形式での実践発表と意見交換
- 小学校通級指導の実践発表(エリアCo)

成果と課題

(成果)

- 通級指導担当教員相互の情報交換ができた。
 - 通級担当教員どうしの横のつながりをつくる手がかりになった。
- 小・中・高の通級指導で、どのような力を積み上げていく必要があるか共有できた。
 - 各校種間の縦のつながりを意識した情報交換の場となった。
(どの校種でも共通して「自己決定と自己理解」が挙げられた)
- エリアコーディネーターも含めて、実践発表の場を提供できた。
 - 具体的な実践の共有ができたことで、効果的な実践が普及・浸透していくきっかけになる。

(課題)

- 研修の対象が限定的だったため、実践発表の共有が広がらなかった。

実践の中で、自分が学んだこと

- 研修会などを通して、各市町の教員が、高い意識と専門性をもって子どもたちの支援を行っていることを知ることができた。
 - 専門性の高い教員より、さらに専門的な知識が求められると感じた。
- 研修会など、たくさんの教員が集まる場所で、色々な方と話をしたり、顔を知ってもらうことの大切さを知った。
 - コーディネーター1年目として、人脈を広げることができた。その中で、地域の情報を得ることができた。



- 近隣市町で行われている研修会へ参加することの大切さを知った。
- 人脈を広げることは、人と人をつなぐコーディネーターの役割を機能させるために必要なことだと知った。

実践活動の今後に向けて

- 継続して地域との連携を図っていく
 - 研修会や情報交換会の開催、市町主催の研修会への協力など
 - 組織作り
- 校内における教員の専門性の向上を図る
 - 「自立活動研修」の運営
 - 外部講師を招いての講演会の運営
 - 人材バンクの発展
 - 自立活動の研究

地域支援づくりの提案

- 縦・横連携ができるよう関係機関に顔が見えるように意識する。
- スクールクラスター交流など多様な学びの場を提供する。
- 本校の取り組みの発信をする。
- エリアCoや教育推進員など各機関との役割分担をする。
- 最新の知識を提供できるよう、引き出しをもっておく。
 - センターの機能としての専門性の向上